

人は「さようなら」の数だけ愛を知る

いよいよ、修了式・卒業式が間近にせまってまいりました。4月は「出会い」の季節に対して、3月は「別れ」の季節とも言えます。

映画監督の故・大林宣彦氏がこんなことばを残されています。彼が、映画の中でいつも使う別れのことばは、「ありがとう」「さようなら」「ごめんなさい」とのことです。「ありがとう」とは、出会わせてくれた運命と、出会ってくれたあなたへの感謝。「ごめんなさい」は、そのあなたにもらったものの大きさに対して、自分があげることのできなかった多くのことについての申し訳なさ、そして最後には礼儀正しく「さようなら」。

ことばは記憶となって人の心に残り、様々な別れは寂しさよりも懐かしさを生む。人生がそのようにしてつくられていくものであるなら、別れの数だけ人生は豊かになっていくのだと。

～ 人は「ありがとう」の数だけ賢くなり、

「ごめんなさい」の数だけやさしくなり、

「さようなら」の数だけ愛を知る ～

子どもたちには、これまで気付かずに通り過ぎていった小さなふれ合いも含め、友だちや先生、家族や周りの人々との関わりについてゆっくり振り返り、賢くなった自分、優しくなった自分、愛されている自分を感じ取ってもらいたいと思っています。



22日、72名の6年生が卒業します。卒業生と保護者の皆様に心からお祝い申し上げるとともに、子どもたちへのご指導・ご支援に関わってくださった多くの皆様に厚く御礼申し上げます。また、他の学年の子どもたちも、進級に対する心構えをしっかりと持つことができるよう心がけてまいります。